

# 平成 31 年度（2 期） 入学試験問題

## 国語総合・現代文 B

（時間 60 分 配点 100 点）

### 受験上の注意事項

- 【1】 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 【2】 受験票、解答用紙（OCR・記述）及び机上の受験番号シールに印刷された受験番号及び氏名が間違っていれば、速やかに監督者に知らせなさい。
- 【3】 この問題冊子は、本文が 20 ページあります。  
問題冊子の印刷が不鮮明であったり、ページが落丁・乱丁していたり、解答用紙（OCR・記述）に汚れ等がある場合には、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 【4】 机には受験票・筆記用具及び時計等監督者から指示された物以外は置いてはいけません。
- 【5】 監督者の指示があるまで退室はできません。
- 【6】 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。
- 【7】 OCR 解答用紙はコンピュータで直接読み取るので、特に次の点に留意しなさい。
  - ① 記入には HB の鉛筆またはシャープペンシル（0.5mm）を使用しなさい。
  - ② 解答用紙の **記入例** を参照して丁寧に記入しなさい。乱雑に記入したものは不利になります。
  - ③ 折り曲げたり、汚したりしてはいけません。
  - ④ 解答用紙には、答案に関係のない語句・記号を書いたり、落書きをしてはいけません。  
（問題冊子には書き込んでもよい。）
  - ⑤ 誤って記入した場合は、消しゴムできれいに消して書き直しなさい。
  - ⑥ 解答が一桁の場合には右詰めで記入しなさい。（次の例を参照しなさい。）

[例] 解答番号①の解答が 4 である場合  
解答番号②の解答が 12 である場合

解答番号	1	2	
解答欄	8   4	1   2	

↑ 左側をあける

### 注意

特に間違えやすい記入例  
正 誤

1 | 1 | 1

これらは 7 と判断する恐れがあるので特に注意しなさい。



平成三十一年度 入学試験問題 (2期)

国語総合・現代文B

— 次の文章を読んで、後の問(問一～問六)に答えよ。

私たち現代人は、日夜文字に接しているために、文字のない状態を想像することが出来なくなっています。もし、文字がなかったら？ 大変なパニックに<sup>①</sup>オチイりそうな気がします。メールもできない。契約も、言った言わないの水掛け論になってとても成り立たない、などと、次から次に心配な出来事が浮かんできます。アですが、それは、文字に頼りすぎた現代社会を浮き彫りにしているだけです。

文字はなくても、「話し言葉」さえあれば、人間は十分に社会生活が営める。世界の中には、今でも文字のない社会が存在します。たとえば、アフリカの少数民族を思い出してみてください。彼らは、文字を持っていません。でも、テレビに映し出される彼らは、実に生き生きと話し言葉だけでコミュニケーションをとって生活しています。毎日パソコンに向き合ってフーフー言って書類作りをしている私たちよりも数倍おおらかに見えます。口で話され、耳で聞かれる「話し言葉」があれば十分に社会生活は営めるのです。

この日本列島にも、まだ文字のない時代があった。いや、文字を使いはじめてからの歴史の方が話し言葉だけの歴史よりも浅い。話し言葉だけの長い言語生活の歴史に対して、文字で記録するという書き言葉の歴史がはじまってから、たかだか一四〇〇年くらいしか経っていないのです。日本人は、文字を持たなくても、アフリカの文字のない社会の人々と同じように、日本語を話し、部族を形成し、元気一杯に日常生活を営んでいたと考えられます。

彼らの話していた日本語ってどんなものなのか？ そもそも日本語はどのように形成されたのか？ これらの問題

は、誰にとっても知りたいことです。特に日本語のルーツに関しては多くの人が注目し、明らかにしようとしている謎です。でも、今のところ、いろいろな説があつて、どれが正しいのかはつきりしません。とりわけ、北方からという説と南方からという説が大きく対立しています。落ち着くところは、南方系のオーストロネシア語の系統を下地に、北方系のアルタイ語の系統が流れ込んで融合し、日本語のキバンが形づくられていったという考えに思えます。こうして形成されていった日本語を、日本人は、長い間書き記すことなく、「話し言葉」としてのみ使用しコミュニケーションを行っていたのです。

話し言葉のコミュニケーションが中心の社会では、現代人の想像をはるかに超えて、言葉そのものが霊力を持っていきます。いわゆる「A 信仰」です。私たち現代人だつて、「四」という番号の部屋は「死」を連想し、不吉だと思つたり、子供に名前をつけるときに姓名判断に凝つたりするのも、言葉にながしかの力を認めているからです。話し言葉だけの社会では、言葉の威力が極めて強かつた。「無事ですよ」と高らかに宣言すれば、発せられた言葉どおりの状態を実現できると考えていた。

敷島の 倭の国は A の 助くる国ぞ 真幸ありこそ (『万葉集』三二五四)

(日本の国は、A が助ける国です。ご無事でいらつしやい、と私が宣言したのですから大丈夫。)

という歌だつて残っています。言葉は、単なる記号ではなく、それが表す状態を実現してしまう霊力を持っているのです。だから、罪を犯した人間に対する罰も、その人についている名前を変えてしまうことから行います。こんな話が『続日本紀』に出ています。

神護景雲三年(七六九年)のこと、女帝称徳天皇は、道鏡にたぶらかされて、とんでもない政治を行おうとしていた。それを輔治能真人清麻呂は、姉と協力して未然に防いだ。けれども、道鏡の逆鱗に触れ、せっかく賜つた姓「輔治能(政治を輔ける能力のある)」、最高の爵位をあらわす姓「真人」を取り上げられ、さらに「清麻呂」という名前を「穢麻呂」という醜名に変えさせられて、流罪となつた。

同じ『続日本紀』の天平宝字元年（七五七年）にはこんな話もあります。橘奈良麻呂と藤原仲麻呂の勢力争いがあった。奈良麻呂側が敗れ、<sup>③</sup>ムホン<sup>ムホン</sup>を企てたという罪で、三人の人物が醜名に改められた。黄文王は、名を「多夫礼」（「気が狂っているもの」）に、道祖王は、名を「麻度比」（「迷っているもの」）に、賀茂角足は、姓を「乃呂志」（「愚鈍」）に変えられ、処刑されています。名前は、その意味どおりの状態を実現させる力を持っているのですから、醜名に変えてしまえば、本人はその名前の通りの状態になってしまうのです。

言葉は単なる記号に過ぎないとする近代言語学思想からは、排除される思想です。でも、私たち一般の現代人は、心の奥底に多かれ少なかれ **A** の思想を受け継いでいます。「運」がつくからという理由で末尾に「ン」のつく名前の商品が発売したりしているではありませんか。

言葉が現実を左右する霊力を持っている社会では、**B** という思想も生まれてきます。たとえば、自分の本名を相手に知られたが最後、相手に何をされるか分からないという心配が生じます。相手が自分の名前を唱えて呪いをかけるかもしれない。すると、その名前を持つ自分自身に危害が及んで来ます。だから、本名を他人に知られることは、**B** なのです。本名を他人に言い当てられたとたんに魔力を失ってしまう化け物の話の残存は、その証拠です。日本のみならず、世界各地に残っています。

日本だったら、たとえば「大工と鬼六」。橋を鬼に作ってもらった大工さん。鬼の名前を当てなければ、鬼に自分の目を差し出さなければならぬ。大工が困って山に逃げ込むと、鬼の子が歌を歌っていた。「早く鬼六ア目玉持って来ばアええなア。」鬼の名前は「鬼六」だった。大工に名前を言い当てられた鬼は、魔力を失い、すぐ退散したという話。

それから、女性の名前。これは、あだやおろそかに男性に知られてはならない。自分の名前を知られた途端に、相手の支配下に置かれることになります。だから、昔の女性たちは、身を許してもよいと思える男性にしか、自分の実名を打ち明けていません。『万葉集』の冒頭は、こんな歌から始まっています。

この岡に 菜摘ます兒 家告らせ 名告らさね そらみつ 大和の国はおしなべて 我こそ居れ しきなべて 我こ

そいませ（『万葉集』一）

（この岡で菜をお摘みの娘さんよ、お家をおつしやい。名をおつしやいな。この大和の国は、ことごとく私が治めて  
いる国だ。すみずみまで私が治めている国だ。）

雄略天皇が美しい乙女を見初めて名のことを求めています。女性が、自分の名を言えば、求婚を<sup>④</sup>シヨウダクしたこ  
とになります。『万葉集』では、この乙女が名乗ったのかどうかは記されていません。名前を知るといことは、その名を持つ  
た人間を自分の支配下におけるということなのです。

以上は、いずれも文字で書き記された時代の資料から、それ以前の状態を推測したものです。文字のない社会の状態は、  
こういうふうにして推測していく以外に方法がありませんから。

文字のない時代にあっても、話し言葉さえあれば、小さな部族で日常生活を営むには別に支障はありません。でも、部  
族が大きくなると、目の前にいる相手とだけコミュニケーションをとっていればすむ場合はありません。また、大きな集団生  
活を維持するための決まりやその集団の精神生活を支えるための言い伝えを次の世代に伝える必要があります。さしあ  
たつては、優れた記憶力の持ち主を選んで、その任務を遂行させればいいのです。

ですが、音声による伝達は、耳によって受け取られることだけを目的にしていますから、語った途端に消えてしまいま  
す。とくに困るのは、優れた語り手の不慮の死によって、集団の精神生活を支えるための伝承が途切れてしまうことです。  
なんとか、次の世代に自分たちが苦労して得た<sup>ちえ</sup>智慧や知識や知識を確実に伝える術は無いものか？ 記録すること。記録にして  
残せば、後の時代の子孫たちも、それを見ればさまざまの智慧や知識を得ることが出来ます。記録するのに適切なものは、  
何でしょうか。

絵。絵でも確かにある程度は伝えることが出来ます。けれども、描くの<sup>に</sup>時間がかかるし、誤解のないように伝えるこ  
とは難しい。そもそも、絵というのは、流れ続ける時間のなかのある瞬間をとらえて表現するものです。それに対して、

話し言葉は時間の流れに沿って展開するものです。最初から、性質が異なる媒体なのです。時間的に展開する話し言葉は、やはり時間的に展開する「文字」に写し取っていくのが最も賢明な方法です。

日本人も、「文字」に記して自分たちの文化的な財産を子孫に残そうと考えた。でも、「文字」と一口に言っても、どうしたらいいのでしょうか。そもそも「文字」がないのです。なにしろ、「話し言葉」だけで、生活してきましたから。「文字」をどうしたら、手に入れられるのか。とるべき方法は二つしかありません。一つは、自分たちで、自分たちの話し言葉を記すのに適した文字を創り出していく方法。もう一つは、すでに創られ使われている他国の文字を借りてきて利用する方法です。

さて、あなたなら、どちらの方法をとりますか。創り出すほうが、一見大変そうにみえます。それに対して、借りる方が簡単そうに思えます。でも、新しく文字を創り出していく方法は、文字を書いていくシステムさえ思いつけば、思っているよりも創造的で楽しい作業になります。韓国のハングルなどは、その良い例です。ハングルは、李朝第四代国王世宗（りちょうよんたいこわうせいそう）の時代に学者によって考案され、一四四六年に「訓民正音（訓みんせいおん）」として公布された朝鮮固有の文字です。アルファベットのよ  
うな表音文字でありながら、漢字の原理を取り入れ、母音字と子音字を組み合わせて音節単位に書く文字です。一定のシステムに従って体系的に創り上げられています。

さて、もう一方のよその国の文字を借りるという場合は、思っているよりも楽ではないのです。とりわけ、書き記すべき日本語とは違った構造の言語の文字を借りた場合には、その苦労は半端ではありません。いったん出来上がった家を自分の好みに合わせてリフォームしていく作業を思い起こしてください。新築の家を建てるのよりも、技術がいりません。新築の家なら、新米の大工さんにでもできる。でも、リフォームは新米の大工さんには出来ない。熟練した大工さんになって、はじめて好みにあったリフォームが出来るのです。

出来上がってそれなりに完成している物を作り変えるという作業は、実は新品を造るよりもある意味では大変だということに、日本人は気づきませんでした。



というより、日本には、お隣に中国という文化国家があり、政治・経済を含めてすべてを取り入れ、吸収せざるを得なかったといった方がいいかもしれません。中国には、紀元前一五〇〇年頃に発生した漢字が存在しています。尊敬している国に漢字という手本がある。それっ、というわけで、よくも考えずに日本が漢字を借りてしまうのはごく普通の道筋です。でも、これが、後に日本の表記体系を複雑きわまりないものにしてしまう原因になるのです。

(山口仲美著『日本語の歴史』岩波新書  
に基づく)

(注) 1 オーストロネシア語の系統……ここでは、マレー、ポリネシア、インドネシアなど、南方の東南アジアや太平洋の島々に広がるオーストロネシア語族に属する言語系統。

2 アルタイ語の系統……ここでは、ロシア中部のアルタイ地方やモンゴル草原に広がるアルタイ語族に属する言語系統の一つの意。

3 『続日本紀』……延暦一六(七九七)年に完成した勅撰の史書。『日本書紀』に続く六国史の第二にあたる。

4 訓民正音……「国民に訓える正しい音」という意味で、李朝で国字を制定したとき、その文字に与えた名称。

問一 傍線部①～④のカタカナを漢字に直し、【記述解答用紙】に記入せよ。解答番号は、①〈1〉・②〈2〉・③〈3〉・④〈4〉

問二 傍線部A「ですが、それは、文字に頼りすぎた現代社会を浮き彫りにしているだけです」とあるが、現代社会が文字に頼りすぎていると述べる根拠として適切ではないものを次の1～4の中から一つ選び、【OCR解答用紙】にその番号を記入せよ。解答番号は、1



1 今でも世界の中には、アフリカの少数民族のように、文字を持たなくても生き生きと社会生活を営んでいる人たちが存在していること。

2 日本人の書き言葉の歴史はたかだか一四〇〇年くらいしか経っておらず、それ以前の、文字のない話し言葉だけの時代にも日本人は元氣一杯に日常生活を営んでいたこと。

3 現代社会は、パソコンによる書類作りや、契約、メール等、文字でやり取りする機会が多いこと。

4 日本語は、南方系のオーストロネシア語系統と北方系のアルタイ語系統が融合して形成されたもので、「話し言葉」でコミュニケーションを行うのに適した言語であること。

問三 四箇所の空欄 **A** と、二箇所の空欄 **B** にはそれぞれ同じ言葉が入る。最も適切な言葉を、次の1～4の中から

- それぞれ一つずつ選び、【OCR解答用紙】にその番号を記入せよ。解答番号は、**A** **2** ・ **B** **3**
- |   |   |          |   |     |   |    |   |    |
|---|---|----------|---|-----|---|----|---|----|
| A | 1 | 氏神       | 2 | 御霊  | 3 | 言霊 | 4 | 精霊 |
| B | 1 | アイデンティティ | 2 | タブー | 3 | 解脱 | 4 | 呪術 |

問四 本文中に使用されている具体例の説明として、誤っているものを次の1～4の中から一つ選び、【OCR解答用紙】にその番号を記入せよ。解答番号は、4

1 『万葉集』三二五四「敷島の……」の歌は、話し言葉だけの社会では、言葉は単なる記号ではなく霊力が宿るものであり、その霊力によって、発せられた言葉どおりの状態を実現できると考えられていたことを示す例である。

2 『続日本紀』の二つの話は、名前を醜名に変えさせる罰は、話し言葉中心の社会では、名前がその意味どおりの状態にさせる力を持っていたことを示す例である。

3 「大工と鬼六」の話と『万葉集』一の歌は、相手に名前を知られることは相手の支配下に入ることの意味し、これが後の日本人の匿名行為の拡大にも通じるものがあることを説明する例である。

4 一四四六年に「訓民正音」として公布され、広く国中で使われ始めた朝鮮固有の文字ハングルは、自分たちの話し言葉を記すのに適した文字を自分たちで創り出した例である。

問五 傍線部イ「さて、もう一方のよその国の文字を借りるといふ場合は、思っているよりも楽ではないのです。とりわけ、書き記すべき日本語とは違った構造の言語の文字を借りた場合には、その苦勞は半端ではありません」とあるが、よその国の文字を借りた日本はどうなったのか。最も適切な一文の最初の五文字を本文中から抜き出し、【記述解答用紙】に記入せよ。ただし、読点や記号も字数に含むものとする。解答番号は、(5)

問六 本文の内容と合致するものとして最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、【OCR解答用紙】にその番号を記入せよ。解答番号は、5

1 日本語のルーツが、南方系のオーストロネシア語系統と北方系のアルタイ語系統との融合であることから、日本人は、南方からやってきた民族と北方からやってきた民族で構成されたと考えられる。

2 韓国と日本はいずれも中国に近い国であるが、それぞれの話し言葉を文字にする際には、交流の深度と国民感情が作用して、韓国は独自のハングルを創り出す方法を取り、日本は中国の文字である漢字を借りる方法を選択した。

3 日本では、次第に大きくなった集団生活を維持する決まりや集団の精神生活を支えるための伝承を出版して、確実に次の世代に伝えるために文字が必要となったと考えられる。

4 日本人にとって中国は、政治・経済を含めてすべての分野の先進文化国であり、その中国で紀元前一五〇〇年頃に発生した漢字を手本として借りてくることは自然なことであった。

二 次の文章を読んで、後の問（問一～問七）に答えよ。

私たちは〈言葉〉を用いて認識・思考し、自分の意思を伝達します。私たちは〈言葉〉以外のものを用いてそれらを行うことができませぬ。一般に、身振りや態度などの「非言語的コミュニケーション」も「言語的記号」（つまり〈言葉〉）として扱われます。このように、私たちの認識や思考が、〈言葉〉の枠内のみで行われることを、「言語の専制」と呼ぶ場合もあります。つまり、私たちは自由に認識し思考しているつもりですが、実は〈言葉〉という制度に囚とらわれているというわけです。「専制」という言葉には、そんなニュアンスがこめられています。

言葉の機能の中心に「分類」があります。これは、言葉は「私たちが知覚したものを分類する」ために用いられるという意味です。しかしこの分類が、自由に行われることはありません。 A、それは「ア あらかじめ存在する何らかの概念の中に当てはめていく」という方向で行われるのが普通だからです。

このことをもう少し説明してみますが、その前に、まず以下の質問を考えてみてください。

次の中で仲間はずれのを一つだけ探し出しなさい。

- (1) アリ (2) クモ (3) チョウ (4) トンボ

もちろん答えは「クモ」です。クモは足が八本ある節足動物で「クモ類」に属しますが、他の三つは同じ節足動物でも、足が六本ある「① コンチュウ類」に属します。これは小学校の入学試験などでは常識の類たぐいの問題のようです。

イ 個人的な話で ② キョウシユクですが、私の娘が幼稚園に通っていたころ、この問題に以下のように答えました。

「答えはアリ。その理由は、アリは私に踏まれるけれども、ほかの三つは私には踏まれないから」

残念ながら、この答えでは正解にはなりません。「踏まれるか踏まれないか」というのは、事実に基づくものであって、

その判断基準が間違っているわけではないのですが、きわめて主観的な判断であるため正解とはなりません。

これらの四つの生物を分類する方法自体は無限に存在します。たとえば「飛ぶか飛ばないか」「複眼か単眼か」「三つの文字で構成されているか否か」などです。しかし、それらの分類基準は、設問にある「一つだけ」という条件を満たしていないため不正解です。

しかし、「一つだけ」ということなら、たとえば「幼虫のところに水生である」というのは、実は「トンボ」のみに該当するものであり、その意味では「トンボ」を正解とすることもできます。また、アリのみが「群居性」であるということから、「アリ」を選ぶことも可能です。

何かを分類するための基準は、実は無限に存在します。しかし私たちは、それらのうちから恣意的(勝手)に、ある種の「基準」のみを選び出し、それによって「分類」を行います。B、「正解とされる分類」というのは、それが「社会において一般的に用いられる基準である」、もしくは「社会において重要度が高いとされている基準である」ということによつて裏打ちされているだけです。つまり、私たちが何かを学ぶということは、社会において重要とされている分類基準を自分のものとするということを意味しています。

そしてこのとき私たちは、少しだけ「自分を殺す」ことになります。それが「大人になる」ということであり、「社会化する」ということです。

しかしこのとき忘れてはならないのは、「どのような分類基準であれ、本来は等しい価値しかもっていないはずだ」ということです。それらの重要度に差をつけるのは、社会の要請によるものであって、「本来的な正しさ」はそこには存在しません。

たとえば前述の例で言うと、私の娘にとって重要なのは、「自分が踏めるか踏めないか」ということでした。そしてそれらの生物にとってさえ、「自分の足が何本であるか」ということよりも、「自分が子供に踏まれる存在であるか否か」のほうがはるかに重要だろうと思われれます。

ここからわかるのは、「本来的に正しい分類」などというものは想定できないということです。分類は、常に「何らかの価値基準」（＝重要度）のもとに行われるものであり、上記の例で言えば、「そう答えると、小学校入試で点数をとれるから」ということではありません。私たちは「目的を離れた正しさ」を得ることができない存在です。その意味で「正しさ」とは、常に「何らかの目的のもとでの正しさ」ではありません。

ここで、<sup>ウ</sup>言語の「制度的な側面」について考えておく必要があります。私たちは言葉という道具を用いて、世界を「切り取って」認識します。また、私たちが認識するのは世界だけではなく、自分自身さえ言葉によって認識します。それが「アイデンティティ＝自己同一性」であり、「私は何であり、何でないか」を決定することです。そして、そのとき私たちが使用する言葉という道具は、ある文化において形成されてきたものです。言葉のもつそのような側面を、フランスの法制史家・精神分析家のピエール・ルジャンドルは「ドグマ性」という概念を用いて検討していきます。ここで「ドグマ」とは、「教条」などと訳される概念であり、私たちが無根拠かつ強固に信じている「認識の枠組み」のことを指します。

私たちは、そのように「文化」の中で培われてきた制度的な「認識の枠組み」によって自己さえも認識します。ここで注意しなければならないのは、それは決して否定されるべきことがらではないということです。ルジャンドルが指摘するのは、この「ドグマ性」を認識し、そこで何をなしようのかを考える必要があるということです。私たちは「ドグマ」から<sup>③</sup>（ジュンスイな意味で）自由になることはできません。私たちがその「ドグマ」から自由になるためには、<sup>エ</sup>言葉のもつドグマ性を認識し、それを所有することを目指すほかはないということです。

私たちは、社会の側に存在する分類基準を無視するわけにはいきません。人間は群居性の動物であり、共同体をつくらせて生活する生き物です。社会の側の分類基準を自分のものとするというのは、そのような社会に生きていく上で、とても重要なことです。なぜなら、そうすることによって、私たちは会話することができますし、意思を疎通させることがより簡単になるからです。

しかし、「他の人たちが考えるように考える」ということは、とても重要なことである反面、「他の人たちが考えるよう

にしか考えられない」という状況を発生させてしまいます。そのとき人は「言葉による束縛」、もしくは「言語の専制」を実感します。

そうならないためにも、社会の側の分類基準は便宜的なものでしかないということを、しっかりと把握しておく必要があります。〈言葉〉とは、私たちが「ともに生きていく」ための基本的な仕組みであると考えることが重要です。

そして私たちは、できるだけ自分を殺さずに、社会の側の分類基準とうまくやっていかななくてはなりません。そのとき重要なのは、「言葉の世界の主人は自分である」という意識をもちつづけることです。すなわち言葉は、私たちが束縛するために存在しているものではありません。言葉は認識の道具であり、意思伝達の道具であり、思考の道具です。

言語が「伝達」の手段であるとき、私たちは社会の側の分類基準に従わなくてはなりません。C 言語が「認識や思考」の手段であるとき、私たちはそれに必ずしも従う必要はありません。自由に認識し、自由に思考してよいはずですが、

すでに述べたように、問題は、認識と思考のための道具である言語を、伝達のための道具として使ってしまったところにあるわけですから、その二つの用途を明確に区別することができれば、その束縛から逃れることが可能になると考えられます。

たかだあきのり  
(高田明典著『「私」のための現代思想』光文社新書  
に基づく)

問一 傍線部①～③のカタカナを漢字に直し、【記述解答用紙】に記入せよ。解答番号は、①〈6〉・②〈7〉・③〈8〉

問二 空欄 A 〳 C に入る最も適切な言葉を、次の1～5の中から一つずつ選び、【OCR解答用紙】にその番号

- を記入せよ。ただし、同じものを繰り返し使用してはならない。解答番号は、A **6** ・ B **7** ・ C **8**
- 1 たしかに      2 なぜなら      3 しかし      4 もはや      5 そして



問三 傍線部ア「あらかじめ存在する何らかの概念の中に当てはめていく」とはどういうことか。次の1〜4の中から適切

- なものを一つ選び、【OCR解答用紙】にその番号を記入せよ。解答番号は、9
- 1 「言語の専制」から自由な、社会の側に存在する分類基準に沿って分類すること。
  - 2 社会で一般的に用いられている基準に沿って「本来的に正しい分類」を実現すること。
  - 3 社会の側で決定される重要度に即した、便宜的な基準に沿って分類すること。
  - 4 言語のドグマ性を認識、所有し、「自分を殺さない」分類のしかたを実現すること。

問四 傍線部イ「個人的な話」によって筆者はどういうことを述べようとしているのか。次の1〜4の中から不適切なもの

- を一つ選び、【OCR解答用紙】にその番号を記入せよ。解答番号は、10
- 1 知覚したものを主観的な判断で分類できるようになるにつれて、社会化が進んでいくということ。
  - 2 人間は何かを学ぶにつれて、少しか「自分を殺す」ようになるということ。
  - 3 「本来的に正しい分類」は想定できないうえに、分類の基準は無限にあるということ。
  - 4 社会化されていない子供は、「言語の専制」を受けずに認識や思考を行っているということ。

問五 傍線部ウ「言語の『制度的な側面』」という表現で、筆者は私たちのどのような認識のあり方を説明しているのか。次

- の1〜4の中から最も適切なものを一つ選び、【OCR解答用紙】にその番号を記入せよ。解答番号は、11
- 1 人は根拠なく信じている枠組みの中で、世界や自己を認識しているということ。
  - 2 個人個人がそれぞれのやり方で、世界を切り取り、認識しているということ。
  - 3 文化によって培われた言葉が、自己や世界の認識を困難にしているということ。
  - 4 言葉とドグマ性を切り離す作業が、自己や世界の認識に不可欠であるということ。

問六 傍線部エ「言葉のもつドグマ性を認識し、それを所有すること」とは、どういうことか。次の1～4の中から最も適切なものを一つ選び、【OCR解答用紙】にその番号を記入せよ。解答番号は、12

- 1 社会が要請する分類基準に従順であること。
- 2 言葉のもつ意味を正しく理解すること。
- 3 言葉による束縛を拒絶すること。
- 4 私たちの認識の枠組みに自覚的であること。

問七 本文で筆者が主張しなかったことは何か。次の1～4の中から最も適切なものを一つ選び、【OCR解答用紙】にその番号を記入せよ。解答番号は、13

- 1 社会で生き抜くためには、言葉のもつドグマ性を理解して、自由な認識や思考を捨てなければならないということ。
- 2 「言葉の世界の主人は自分である」という意識をもつことで、自由に思考し自由に伝達できるようにすること。
- 3 言葉は、意思伝達する場合と、認識や思考をする場合のどちらの場合にも使う道具であるが、両者の用途を区別することが重要であるということ。
- 4 共同体でうまく生きていくためには、その社会における分類の基準に従って物事を認識する必要があるということ。

三 次の各問（問一～問七）を読んで、それぞれの指示に従って答えよ。

問一 次のA～Dの各群において、傍線部の漢字が正しいものはどれか。1～4の中からそれぞれ一つずつ選び、【OCR

解答用紙】にその番号を記入せよ。解答番号は、A  ・ B  ・ C  ・ D

- A
- 1 毎年彼岸すぎには秋の気配が感じられる陽気になる。
  - 2 お化け屋敷からの客の絶響が断続的に聞こえている。
  - 3 人生を悔古する時期は、人によって違いがあるようだ。
  - 4 日陰の多い道路は、冬になると凍決しやすい。

- B
- 1 不朽の名作ばかりを集めた書物が発行される。
  - 2 手もとにある統計資料から必要なデータを注出する。
  - 3 この文章は新聞記事からの伐粹であると示しておいた方がいい。
  - 4 読み手に意図をよく理解させる撤則は、簡潔に述べることだ。

- C
- 1 現代ほど互除の精神が求められる時代はない。
  - 2 今の社会は、先人達のさまざまな恩慶を受けて成り立っている。
  - 3 「悪貨は良貨を駆逐する」という法則は現代でも通用する。
  - 4 先輩たちの体験談は、後輩を励ます示差に富んだ内容だった。

- D
- |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| 4   | 3   | 2   | 1   |
| 二十  | 人類の | 新聞は | 時には |
| 一世紀 | の   | 社会の | には  |
| の   | 記原  | の   | 精   |
| 幕開  | を探  | 公器  | 寂   |
| けを  | る   | である | な   |
| 告   | 調査  |     | 時   |
| げ   | と   |     | 間   |
| る   | 研究  |     | を   |
| 象   | が   |     | 過   |
| 徴   | 続   |     | ご   |
| 的   | け   |     | す   |
| な   | ら   |     | こ   |
| 出   | れ   |     | と   |
| 来   | ら   |     | も   |
| 事   | れ   |     | 大   |
| で   | い   |     | 切   |
| あ   | る   |     | で   |
| る   |     |     | あ   |
|     |     |     | る   |

問二 次のA～Dの各群において、漢字の読み方（カタカナ表記）が正しくないものはどれか。1～4の中からそれぞれ一つずつ選び、【OCR解答用紙】にその番号を記入せよ。解答番号は、A  ・ B  ・ C  ・ D

- A
- |      |      |       |       |
|------|------|-------|-------|
| 4    | 3    | 2     | 1     |
| 暈    | 漂    | 煩     | 惑     |
| (タタ) | (タダ) | (ワズラ) | (マギラ) |
| む    | う    | わしい   | わす    |

- B
- |       |        |         |         |
|-------|--------|---------|---------|
| 4     | 3      | 2       | 1       |
| 帰納    | 滑車     | 経世      | 建立      |
| (キノウ) | (カッシャ) | (キヨウセイ) | (コンリユウ) |

- C
- |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| 4      | 3      | 2      | 1      |
| 水引     | 放免     | 釣果     | 遊説     |
| (ミズヒキ) | (ホウメン) | (チヨウカ) | (ユウセツ) |

- D
- |        |       |        |       |
|--------|-------|--------|-------|
| 4      | 3     | 2      | 1     |
| 割愛     | 履行    | 憤然     | 難破    |
| (ワリアイ) | (リコウ) | (フンゼン) | (ナンパ) |

問三 次のA～Dの慣用句において、に入る最も適切な動詞を、後の1～8の中からそれぞれ一つずつ選び、【OC

R 解答用紙】にその番号を記入せよ。解答番号は、A 22・B 23・C 24・D 25

A 脚光を  B 怒り心頭に  C 岐路に  D 馬が

1 達する 2 集める 3 合う 4 利く

5 発する 6 立つ 7 浴びる 8 通う

問四 次のA・Bの各群で、熟語の成り立ちが他と異なるものを、1～4の中からそれぞれ一つずつ選び、【OCR 解答用紙】

にその番号を記入せよ。解答番号は、A 26・B 27

例 上下の文字が逆の意味を表しているもの……善悪

上下の文字が似た意味を表しているもの……上昇

上の文字が動詞で下の文字が目的語になっているもの……読書

上の文字が下の文字を修飾しているもの……高山

A 1 雄飛 2 希望 3 服従 4 朋友

B 1 卓見 2 総覧 3 克己 4 政局

問五 次のA～Cの言葉の意味として最も適切なものを、1～4の中からそれぞれ一つずつ選び、【OCR 解答用紙】にそ

の番号を記入せよ。解答番号は、A 28・B 29・C 30

A 身から出た錆

1 努力の甲斐なく、失敗に終わってしまうこと。

- 2 努力すれば、自らの能力を高めることができるということ。
- 3 身を削つてでも、他者に尽くすべきだということ。
- 4 自らの悪行の結果として、自分が苦しむこと。

B 情けは人の為ならず

- 1 他人に情報を漏らすと、不利な状況に追い込まれるということ。
- 2 他人に情けをかけて、甘やかしてはいけないということ。
- 3 他人に親切にしておけば、自分により報いが返ってくるということ。
- 4 惨めな思いをすると、やる気をなくしてしまうということ。

C 鶴の一声

- 1 思わぬところから届くうれしい知らせ。
- 2 政治に対する不平不満。
- 3 多くの者の発言を抑える権力のある人の一言。
- 4 議論が活発になるような含蓄のある発言。

問六 次のA・Bの文意に合う四字熟語を、1～4の中からそれぞれ一つずつ選び、【OCR解答用紙】にその番号を記入

せよ。解答番号は、A **31**・B **32**

A 良いものも悪いものも区別なく入りまじっていること。

- 1 多士済済
- 2 同工異曲
- 3 良風美俗
- 4 玉石混淆

B 最後の肝心な仕上げ。

- 1 画竜点睛
- 2 用意周到
- 3 周知徹底
- 4 油断大敵

問七 次のA・Bの傍線部の語句の意味として最も適切なものを、次の1～4の中からそれぞれ一つずつ選び、【OCR解

答用紙】にその番号を記入せよ。解答番号は、A **33**・B **34**

A この危機を乗り越えるために、彼は姑息な手段をとった。

- 1 計画的な
  - 2 冷酷な
  - 3 その場逃れの
  - 4 裏切りの
- B 時間も限られていますので、レポートのさわりだけを報告します。
- 1 目次
  - 2 重要な部分
  - 3 いきさつ
  - 4 誤った部分

〔国語の問題は以上です。〕





